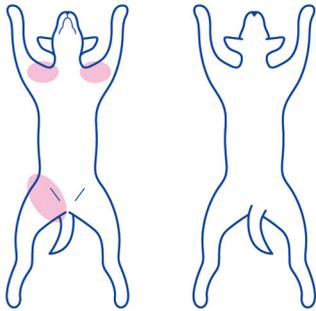




病変部位



プロフィール

犬種：キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル  
年齢：8歳  
性別：雄

キーワード

アトピー性皮膚炎

報告

元：ACプラザ荻谷動物病院 三ツ目通り病院  
日本獣医皮膚科学会認定医 佐藤 理文(東京都)

診断

## アトピー性皮膚炎\* (夏季における急性増悪)

\*Favrotらの提唱する犬アトピー性皮膚炎の診断基準8項目中の6項目を満たしていた<sup>1)</sup>。

既往歴

3歳齢時より皮膚痒みが見られる。これまで夏季などに季節的な増悪がみられた際は、経口のステロイド剤で治療してきた。

症状

口唇、前肢付け根、鼠径部に紅斑および小丘疹が散在し、強い痒みを認めた。皮膚掻爬検査および皮膚押捺塗抹検査陰性。

治療

コルタバンス®(1日1回、7日間)  
口唇周りは比較的軽症であったため投与せず。

経過

治療前の痒みの程度は強く、飼主によるVASスコア\*は8であった。治療開始2日後から痒みの緩和がみられ、5日後の再診時には皮疹はほぼ消失し、痒みの程度はVASスコアで2であった。

\*VASスコア:0(痒みなし)から10(考えられる最大の痒み)までの評点

まとめ

飼主がステロイド剤の内服を希望しなかったため、コルタバンスの投与を選択した。効果発現の速さや有効性において、過去に使用したステロイド剤の内服と遜色なく、投与が簡便であることから飼主も非常に満足していた。

製品



### コルタバンス®

有効成分:

ヒドロコルチゾンアセボン酸エステル(HCA)

効能又は効果:

犬のアレルギー性皮膚炎による症状の緩和

次ページに症例写真がございます。



治療開始前



図1:左右前肢付け根

● 紅斑、脱毛、表皮剥離

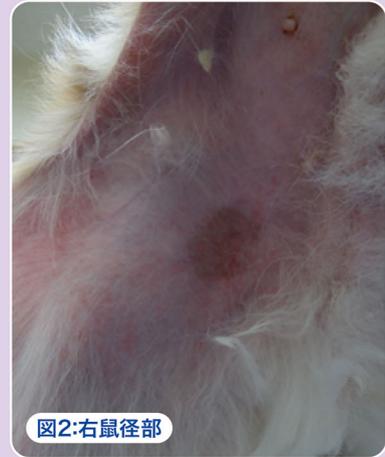


図2:右鼠径部

● 丘疹、紅斑、脱毛

5日後

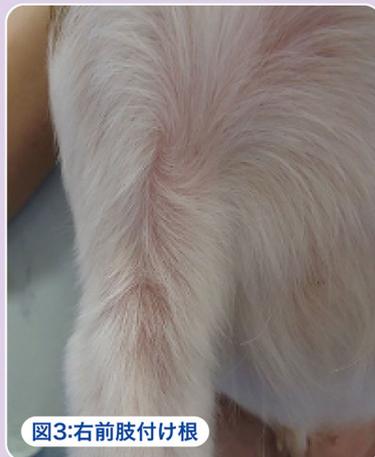


図3:右前肢付け根

● 皮疹消失、発毛

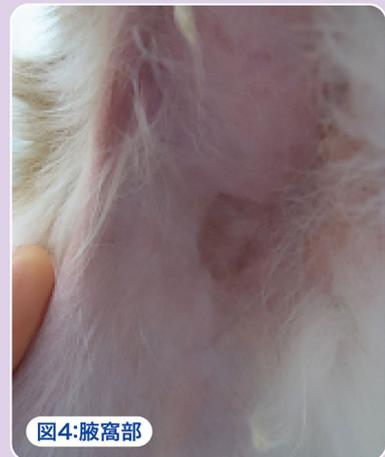


図4:腋窩部

● 皮疹消失

## Favrotらの提唱する犬アトピー性皮膚炎の基準<sup>1)</sup>

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| ①初発が3歳齢以下であること          | ⑤肢端に病変を認める       |
| ②おもに室内飼育                | ⑥耳介に病変を認める       |
| ③グルココルチコイド製剤に反応する癢痒     | ⑦耳介辺縁には臨床症状を認めない |
| ④発症時、発疹の出現を伴わずに癢痒のみを認める | ⑧腰仙部には臨床症状を認めない  |

※8項目中5項目を満たしたときの感度が85%、特異度が79%であるとされる

### 参考文献

- 1) Favrot C, Steffan J Seewald W, et al., 'A prospective study on the clinical features of chronic canine atopic dermatitis and its diagnosis', *Vet Dermatol* 21, 2010,23-31

ご報告いただいた動物病院様に御礼申し上げます。